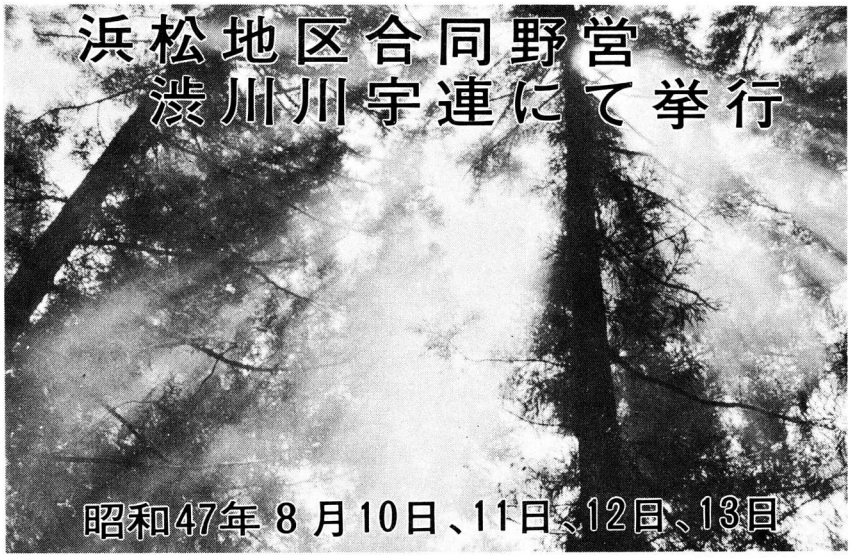
49年開催の第6回日本ジャンボリーは北海道札幌郊外月寒（つきさっぷ）に会場が決定

スカウト浜松

47年度浜松地区大会は10月22日細江公園を中心に挙行



昨年は世界ジャンボリーのため実施しなかった浜松地区合同野営も、本年は従来の慣習通り渋川川宇連に於て挙行すること、なり8月10日より3泊4日間に亘り次の如き編成に依って盛大に実施した。

野営長　内田時世（地区委員長）
副野営長　鈴木宗太郎(10)　竹村徳一(20)
川瀬愛次郎(15)　牧野直雄(21)
渡辺年啓（副コミ）外山吉保（副コミ）名倉惣一郎（中央）小野田将司（南部）鈴木実（西部担当副コミ）
医師　健康安全委員会
9日～10日　内田時世(4)
10日～11日　木村敏夫(12)
11日～12日　長尾静夫(14)
12日～13日　柳本冬彦(10)
本部長　野営行事委員会（各団より奉仕）
庶務　柴田　薫(1)　後藤守利(10)
行事　八木本忠夫(19)その他企画委員
配給　中島繁光(6)その他の企画委員
輸送　野営行事委員（各団）

10日8時30分、10台の貸切バスは各

10日8時30分、10台の貸切りバスは各地よりスカウトを集め、渋川の野営場に向って出発した。野営場に集まったスカウトの数は実にリーダー49名を含め533名に及び従来にない大部隊であるため本年は別図の如き配置でキャンプを張った。

しかし設営時より12日まで殆んど降ったり止んだりの降雨に悩まされスカウト達はこの点大変苦しめられ通しであったが、これはかえってよき訓練となったこと、思う。

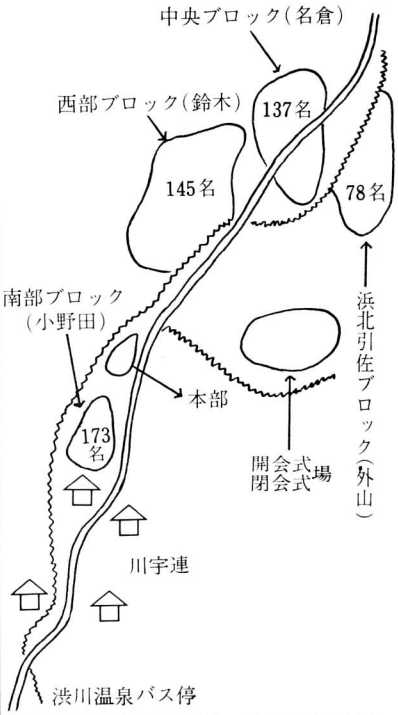
13日の撤営日はようやく快晴となったが、それでも乾燥しきれない天幕やむしろ等の器材を各団の輸送部隊は統制された交通規制に基き順調に撤営し無事終了することが出来た。

昭和47年度地区合同野営日程表

時刻	10日㊏	11日㊐		12日㊊		13日㊋
6		起床、洗面、清そう		同　左		同　左
7						
8	集　合	点検・講評		同　左		同　左
		朝　礼		同　左		同　左
9	点呼・点検	ハイキングA	隊作業B	隊作業A	ハイキングB	サイト交換会
	出　発					
10						簡易測量器作り ネッカーリング作り
11	野営地に到着					昼　食
	開所式		昼食	昼食		
12	お弁当					撤　営
13	設　営		午睡	午睡		
14		帰着	ブロック行事	ブロック行事	帰着	
		ハイクまとめ			ハイクまとめ	閉所式
15	休けい・歌とゲーム（隊で）	隊作業			隊作業	出　発
16	設　営					
17	夕食準備、夕食	同左	同左	同左	同平	帰着・解散
18	国旗降納	同左	同左	同左	同左	
	自由時間	同左	同左	同左	同左	
19	各隊プログラム	夜間ゲーム	営火準備	営火準備	夜間ゲーム	
			営	営		
20	班長会議	同左	火	火	班長会議	
21	班会議	同左	班長会議	班長会議	班会議	
			班会議	班会議		
22	消灯	同　左		同　左		

（A）は中央ブロックと西部ブロック（B）は南部ブロックと浜北・引佐ブロック

渋川野営地にて



地区野営行事委員長
竜口和弘氏逝去

地区野営行事委員長として、また浜松第4団副団委員長として多年ボーイスカウト運動の発展に尽されました。

竜口氏弘氏は東京の病院で療養中の処、7月22日逝去されました。和謹しんでご冥福をお祈りいたします。

県連結成50周年記念

アメリカ派遣団浜松地区壮行会

日本ボーイスカウト静岡県連結成50周年記念として、本年アメリカのボーイスカウト活動を視察するため、アメリカ派遣団を結成、県下より各派遣することになり、浜松地区関係では次の各氏が自費参加することとなった。出発に先だち7月19日午后8時より法林寺に於てこれら派遣団員の壮行会を有志に依って実施し、内田地区委員長より壮途激励のことばに対し、内田嘉一県コミより代表してあいさつ、乾杯……放談と合いつぎなごやかなうちに最後に市川県議の弥栄に依って壮途を祝して散会した。

参加者は次の各氏である。

浜松地区ボーイスカウト委員長　宮沢広士
浜松地区ボーイスカウト副コミッショナー　三輪悦爾
県コミッショナー　内田嘉一

派遣団一同

浜松第20団　杉山正禎
浜松第1団　牧野誠績
浜松第1団　斎木吉二
浜松第4団　井沢正道
細江第14団　ノ口泰道

壮行会風景

紹　介

浜松地区健康安全委員長
浜松第14団育成会長

長尾　静夫氏

先生は浜松第14団育成会長であり、地区健康安全委員長で活躍されていることは皆様ご存知の通りです。先生は大正3年10月7日阿波踊りで有名な徳島県那賀郡今津村大字島尻に誕生され、昭和14年3月慶応義塾大学医学部を卒業されてから小樽市立病院副院長となられ昭和22年浜松日赤病院に転勤、昭和35年7月1日現在地にて小児科医院を開業、浜松女子名門校市立高校の前にて、将来のお母さんになる女子高校生に毎日長尾小児科の印象を与えているところなど、心にくい程です。

ご夫婦共に熱心なカトリック教信者で、先生には学生時代より洗礼を受けた程の方です。同じ宗教の人と一緒になる方が良いと考えて奥様をえらんだ由、先生はいつもニコニコして全く小児科向きで、浜松一のご多忙の中で、ボーイスカウト運動に奉仕していただけることは本当に有難いことです。お子さんは、男の子ばかり5人で、ご長男は医者さんの玉子で目下修業中です。又先生は、浜松ロータリーの会員で、本年は青少年委員長として活躍、大のビール党でサッポロ会の世話人のお一人です。

ますますお元気でボーイスカウト運動に奉仕されることをお願いいたします。

合同野営が終って

第4団団委員長　内田　時世

8月14日（月）晴　昨日で合同野営も無事終了した。雨で始った野営も一応晴天の撤営でよかった。スカウトも色々の体験をしたとおもわれる。

今日は朝から野営具の手入れで私の庭はスカウト達でにぎやかである。どろでよごれた天幕がリーダースカウトの苦労を物語っている。スカウティングの8月号のキャンピングというみだしでキャンプの教育的意義について。(1)大自然に融合する心情にひたらせることが要諦だといわれる。自然の美しさを求め、自然の神秘にふれて、はじめて少年は神を身近に感じることだろう。大自然に融合することは、神を知ることである。(2)自然環境の中で、人は赤裸々な姿をあらわす。そこに信頼と理解の念が起こり、それがやがて友情、愛情へと発展していくこの愛が教育の根源なりである。(3)静かな環境の中で共同生活することは、お互いの立場を認めそして助け合うこととなり行動が積極的になって、責任感がおう盛になってくる。素ぼくな生活は自主自立の心を養い、勤労を喜び、物ごとに愛情をいだく力の源となって、民主社会における生活の基礎をきずくことになる。(4)これらのことから実せん力がつき、現代っ子の欠点であるねばりと根生の不足が充分にきたえられてくる。そして自分

閉会式

が考え、自分がプランニングできる。迫力ある人間が形成されていく。と記してあった。

1日では野営のあとしまつもやりおせない、明日の集会を約束して皆が帰宅した。夜の隊ルームは大体整理されており、あの天幕特有の青草のにおいがルーム一杯にたちこめて、一人静かに野営地を思い出して、今更のように隊長の苦労と努力をしみじみと感じている。此のスカウト達が奉仕の理念に生きて、やがて大人として社会に役立つ日を私達は念じつつ野営の終った事を感じ、あらためて隊長に感謝をおもい、キャンプ教育の重大さを痛感している。野営そのものが目的ではないことは、重々承知のとおりである。われわれの目的はスカウテングすること、つまり「よい公民を育てる」ことにあるのであり、野営は、この目的を果すための方法のひとつなのである。ボーイスカウトのキャンピングは何ケ月もかけた事前の準備、事后の用具の補修格納、報告書や会計報告作成のいっさいの完了まで含めて、キャンピングと称している。したがって、多数の人々の奉仕の善意が結束して完成されたことを一人一人が忘れてはならない。

キャンピングの終了した后に残るのは、全ての人に、全ての物に感謝のみである。

残暑御見舞申上げます

名誉役員
浜松市長
平山博三

ボーイスカウト静岡県連
浜松地区委員長
内田時世

日連理事　県連理事
浜松第16団育成会長
市川重雄
三笠給食㈱　カネイチ産業㈱

浜松地区副委員長
浜松第12団カブ隊長
宮沢廣士

県連結成50周年記念
アメリカ派遣団浜松地区一同

県コミッショナー	内田　嘉一	浜松第４団	牧野　績
地区　〃	三輪　悦爾	浜松第１団	斉木　誠二
浜松地区副委員長	宮沢　広士	浜松第１団	吉沢　正道
細江第１団	杉山　正禎	浜松第20団	井ノ口泰三

いつも元気
浜松第16団
育成会長　市川重雄
団委員長　新谷　豊

浜松第19団

育成会長	牧田　健	ＢＳ隊長	八木本忠夫
団委員長	鈴木　護	〃　副長	鈴木　健郎
副委員長	野中　豊治	〃	井田伸太郎
団委員	渥美　俊策	〃	庄司　春雄
〃	久保　力	ＣＳ隊長	山口　洸
〃	和久田正男	〃　副長	井上　萩江
〃	鈴木　真一	〃	片桐日出夫
〃	山崎　悦孝	〃	沢根　悦子
〃	小沢　登	〃	鈴木しげ子

地区進歩委員長
浜松第12団々委員長
中嶋圭介

地区財政委員長
12団副団委員長
金森武夫

地区指導者養成委員長
浜松第７団委員長
大橋俊蔵

浜松第15団

育成会長	林　良太郎	少年第一隊長	名倉惣一郎
団委員長	山中　将司	〃　第二隊長	市川　隆
副　〃	袴田　栄治	シニア隊長	原口　芳彦
〃　〃	川瀬愛治郎		
カブ隊長	山下　虎男	ローバー隊長	平野　武

地区組織拡張委員会
委員長　杉山友男
副委員長　山中将司

ボーイスカウト ガールスカウト 振興県会議員連盟の設立に当って

市川　重雄

世界87ケ国のスカウトを本県朝霧高原に迎えた第13回世界ジャンボリーより早や一ケ年を経過しました。本年は日本ボーイスカウトにとって50周年に当る年ですが、我が静岡県連盟は一年早い昨年に発祥50周年の記念式典を発祥の地、静岡城内小学校に於て行われました。又世界ジャンボリーを目指したスカウト人口三倍増もジャンボリー開催の直前六月には見事達成し、ジャンボリーの成功への協力態勢と共に本県ボーイスカウト活動の歴史に輝かしい一頁を飾ったのであります。かくて本県スカウト運動は量的にも質的にも一層の向上を計るべきときでありますが、おりしも従来よりスカウト運動に理解のある県議会議員によるスカウト議員連盟の設立への動きが一段と高まって参りました。

特に近年の急激な社会構造の変化が少年の教育に新しい問題を投げかけつつあります。つまり核家族化に伴う家庭条件の弱体化、都市化による自然環境からの隔絶、マスコミに便乗する不良文化財の氾濫、交通災害の激増など少年の望ましい成長を阻害する要因が身辺にふえてきております。こうした事情のもとですべての少年を心身とも健全に育成するためには、家庭および学校との連けいにおいて社会に於ける少年団体の活動が増々重要になってきております。このときに当りスカウト運動に反対する共産、社会党は参加していただけなかったのでありますが、自民党50名の県議会議員中42名の議員によってボーイスカウト・ガールスカウト振興県会議員連盟が組織され、この六月県議会の最終日の七月八日、県庁内に於いてボーイスカウト関係より川井連盟長、尾崎副連盟長、大角事務局長、ガールスカウト関係より代表2名の方の御出席の下、結成式を行ったのであります。

又本年は県連盟においてもアメリカ研修派遣を始め第13回スコットランド国際パトロール、ジャンボレット派遣、第7回エセックスジャンボリー派遣、韓国50年ジャンボリー派遣、第2回インドネシア・ローバームート派遣と大いに国際性を高める海外交流が多く行われております。

私も今回第13回東海北陸7県議会の欧米行政産業視察団の一員として8月5日より9月4日迄の1ケ月間大いに勉強してまいりますが、今後のスカウト運動に対する一助となれば幸いです。

幸いスカウト振興県会議員連盟の設立の機と重なり、スカウト運動への努力を強く認識すると共に、本県スカウト連盟の弥栄を衷心よりお祈り致し御挨拶といたします。

残暑御見舞申上げます

弥栄
夏こそ来たれり！
浜松第10団

木村敏夫内科医院
鴨江2丁目32－3
TEL㊷－7215

浜北第3団

育成会長	大城凪	CS隊長	野中不二夫
育成副会長	平松利八	〃 副長	竹内保夫
会計	広瀬宗真	〃 〃	伊藤史子
団委員長	山下総太郎	〃 〃	伊藤まり子
副団委員長	大高正	BS隊長	森島伸
〈他団委員一同〉		〃 副長	高田達二
		〃 〃	沢木務
		〃 〃	高林紀雄

ナショナル住宅相談室
浜北第2団　団委員長
松井　英昭

浜北第4団

育成会長	高倉　要
団委員長	星野長次
副〃	梅林朝雄

浜北第1団

育成会長	横田清雄	年少隊長	布施隆三
団委員長	杉山友男	〃 副長	小倉茂嘉
財政委員	松本芳郎	〃 〃	田宮真
組拡委員	久保田幸次	〃 副長	補坂東江美
〃 〃	伊藤勝	少年隊第1隊長	平野正昭
指導者養成委員	加藤悦夫	〃 副長	井口清司
〃 〃	小山進	〃 第2隊長	外山吉保
野営行事委員	伊藤達己	〃 副長	山下正義
〃 〃	山川利三郎	年長隊々長	坂東毅
健康安全委員	横田靖雄	青年隊々長	奥野嘉一
進歩委員	宮木信男	監事	金原三夫
〃 〃	硯田昭人	〃 〃	馬渕要人

御挨拶

三指壮行会にまた出発に際しましては、御多忙中多数の皆様方の暖いお心づかいをいただき私達8名心から厚く御礼を申しあげます。

8月10月午後6時半無事全員日本の土を踏むことが出来一入感慨をあらたに致しております。アメリカの旅、特にヒルモント・スカウトランチにおけるトレーニングの思い出も必ずやスカウト達にそれぞれ良いものを伝える事を確約致し、無事帰国のご挨拶を申し上げます。

益々日本のスカウテングが正しく伸展致すお手伝いを何等かの役割を果す事を約束致します。次号にそれぞれが感じたままを投稿させていただきます。

何れ折をみてその詳細については御報告を申上げたいと存じます。

壮行会風景
静岡県連盟結成50周年記念訪米視察研修団浜松地区参加者一同

アメリカ便り

三輪　悦爾

三指出発に際しましては、種々ありがとう存じました。

主目的であるヒルモントスカウトランチにおけるトレーニングコースも今日無事修了。ロスアンゼルス、メイフラワーホテルに落付きました。ヒルモントの4日間を終えほっとした次第です。

扨て26日午前9時10分カリフォルニア州サンフランシスコを振出しにネバダ州アリゾナ州、ニューメキシコ州と1日300マイル～500マイル(東京－大阪間)時には東京・大阪往復の旅を続けながら本当に得るところが沢山ありました。

まずサンフランシスコでは、オーバーコートを着ている婦人又、ミンクのえり巻をしている貴婦人（本当はオバハンでしょう）半袖を着ている若者、ミニミニのお嬢さん、午后は、さほど寒くはないが朝夕、時には日中冷たい風である。尚日中、殆んど街を歩いている人がないのはなぜだろう。道路一ぱいに自動車が駐車してある（パーキングメーター）にもかかわらず？州から州への旅はトランスワールド特別機にて工場郡と住宅郡に分けられている都市サンフランシスコ、あらゆる人種が種々雑多な生活様式をしているサンフランシスコ（ヒルモントスカウトランチトレーニングコース）数ケ所数班に分れてそれぞれのコースにおいて大変勉強に相成りました。

一つには水の尊さ、フンダンにもてる米国でも一端山の中に入りキャンプ生活をする上においてキャンプマナーが大変しっかりしていること。これは（ドブ池の水をのまされた時以外）ドロ水にカルキと消毒の剤じょうを入れ飲されたのである。米国レンジャースカウトのわが班での指導である。捨ててしまうべきものでも時と場所によって 180度の転回がされるのにはおどろきでした。まずは一信飛行機の中で書くはずの原稿、杉山さんと約束したこと、書けそうもないのでロスにて一筆したためます。ロスアンゼルスにて

敬弔　県連理事長の急逝

静岡県連盟理事長・日本連盟副総コミッショナー矢田唯雄氏は昭和四十七年八月十四日午後六時、心筋こうそくの為急逝されました。御生前の県連運営に尽された偉大な功績と特に日本ジャンボリー、世界ジャンボリー、三倍増運動に対して貢献された成果は今更に申し上げる迄もありません。

茲に御偉徳を偲び、その御冥福をお祈り致します。

もう一度見直そう

地区委員長
内田　時世

Let's take a new look.（もう一度見直そう）これは1972--73年国際ロータリー会長ロイD・ヒックマンのターゲットである。ロイ会長は「もう一度見直そう、各人がその立場に於て、そして自問して見よう。」と更に「自分がどのくらい高く登ったかを知りたければ、まずどこから出発したかを知らなければならない」といわれる。私の年頭挨拶にもBS運動原点に帰って考えなおして行動をしようと皆さんにお願いしました。既に夏期に入りいよいよ野外活動の好シーズンとなりました。改新的、建設的、試行錯誤は大いにやるべきだと信じます。スカウト関係の皆さん更に奉仕の理念に生きて行こうではありませんか。

《手旗信号》

浜松第4団　野口　光一

少年隊進級章2級の課目に手旗信号がある。我々は常に意志の伝達（コミニケーション）が大切です。離れた所との簡単な伝達方法の一つとして手旗信号があります。

この手旗信号は、海軍信号規程にもありますが、昭和6年(1931)2月通信省告示により日本船舶信号規程として定められました。戦後は昭和27年(1952年)10月1日付運輸省告示第 302号により公布され、国内統一した信号となっています。したがってその運用は、ボーイスカウト独自のものでなく、誰もがどこの人とも交信出来る必要があり、そうでなければなりません。春になると新しいスカウトが入り、手旗訓練も行う機会が多くなります。ルールにそった訓練をする必要がありますのでそれを述べます。

◎　原画形象

手旗信号の基礎ですので、くり返し、繰返し 練習します。これがくずれるとアがカにテがミになったりします。

◎　交信法

起信、応信、送信、消信、解信等手続信号のルールを覚え確認します。筆記の必要な場合の〝カケ〟解読出来ない場合の〝サラ〟等のルールは、実際に応用しながら覚えます。

◎　文字形象

〝エ〟〝チ〟の第2原画は赤旗でなく白旗を上げる事になっています。守られていないので早急に訂正する必要があります。

◎　覚え方

モールスと違いカタカナの応用で目で見れば判るものです。集会やハイク、キャンプで積極的にゲームの中に取り入れ、楽しみながら利用する事が大切です。

◎　参考書

指導者の方は次の本を購入すると指導するのに参考になります。

(書　名)	(著　者)	(発行所)
最新旗と信号	三谷末治	成山堂
新船舶信号法	杉浦昭典・近藤太共	海文堂
国旗信号旗と手旗信号	海文堂	海文堂

これこそ スカウト一家

浜北第1団の宮木信男さんの御家庭

浜北第1団の団委員をされておられる宮木信男さん御一家は家族7名全員がスカウトに関係しておられるという、珍しい御家庭であります。

御主人の信男さんは、浜松の中央青果北部営業所に10年間も勤務されておられるかたわらスカウト活動にも深い御理解をもち、御子さん全員をスカウトに入隊させると共に、御自分も現在団委員として活躍されております。奥さんの貴子さん（この写真には写っておりませんが）はカブ隊のデンマザーとして御多忙中をよく奉仕して頂いております。長男の俊行君は、浜北第1団創立当時のスカウトで現在ローバ班に所属しておりますが、自衛隊に勤務し、航空パイロットへの道に向って邁進しております。中学生の厚至、孝昌君は共に中学生でボーイスカウト。小学生の千恵子さんはガールスカウト第22団に所属しており末の啓之君は目下カブスカウトに属し、お兄ちゃんたちに負けないように頑張っております。

子宝に恵まれ、そして全員がスカウトとしての共通の話題をもつことの出来るこの明るい宮木さん御一家の前途益々弥栄あらんことを念願致したいと思います。

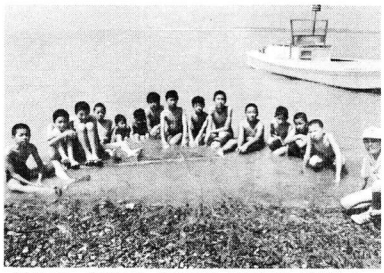
第14団雑感

浜松第14団　本多　勇次

私の息子が14団に入団したのは、子供が小学校5年になったばかりですが、現在6年生になり、ボーイの卵がひよこになったほやほやです。其の間育成会の先輩、前中島団委員長、隊長の滝川さん、副長の小笠原さん、現在の団委員長の松下さん等非常に御世話になりました。其の間、世界ジャンボリーと云う記念すべき大行事も昨日の様に思い出されます。教会と云う恵まれた環境で子供達が大らかに指導されている現在、子供にとっても私自身も本当に感謝の気持で一ぱいです。

私達14団では、今迄以上に団結が堅く結束されたのも世界ジャンボリーが終ってから急上昇したと云っても過言でないでしょう。それは、此の半年位前から育成会と隊長とで話し合い、毎月育成会の例会を第二日曜日と定めました。殆んどの育成会員が毎月顔を出される熱意さは、私も可成り各方面に顔をつっ込む方ですが、今迄に余り経験のない事実です。

7月の終りに近い29日30日と天竜川の河口にて団員と育成会とでサイクリングキャンプを行いました。別覧の写真は其の時の松下さんが写したものです。台風が通り過ぎた後で天候に恵まれ、実に快適なキャンプでした。キャンプファイヤーの後、育成会での話がはずみ11時過ぎ迄14団の事について語り合いました。又折にふれて前隊長さんの山田さんから、今迄の事を伺い14団の歴史を披露させて頂きます。



リーダー研修野営に参加して

浜松第14団　斎藤房太郎

「わらぞうりを作ったことのある人は手をあげてください」。隊長の声にみんなはたがいに顔を見合わせて、一瞬シーンとなった。

この日、集合した我々は、それぞれの班にわかれ、設営もようやく整ったところで課題について話を聞くことになったのである。実は今回のリーダー研修野営について、事前にくわしく準備していなかったので、自分としてどんなめあてをもって臨めばいいかはっきりしないまま参加したことについて、ひどく反省をしていた。もちろん野営全般について何事も経験することがたいせつだから、謙虚な気持で何でも覚えてやろうと考えていた。しかも開講式のとき、三輪隊長が「ことばで覚えずにからだで覚えることがたいせつ」という話があったばかりだったので、とにかく何でも勉強になるからと思っていた。

さて、いよいよ話がすすんで、わらぞうりのことになってくると何となく心が落ちつかなくなった。自分にはたしかに少年時代わらぞうりを作ったおぼえがあった。しかし、でき上がってそれがはけられるようになったかどうか覚えていない。わらぞうりを作ったことがある人といわれて手をあげたのはほんのわずかであったので、作れる自信がなくなった。たぶんあんなふうにやればいいと思う程度であった。

翌朝、いそがしい日課の中で、ぞうり作りがはじまった。なわはいくらかなえたが、いざぞうり作りとなると手が進まなくなった。なわが同じ太さになえない上に、まるいぞうりの形を作りながら編んでいくのがむずかしかった。とくにはなおの位置や大きさがわからずに、とうとう時間になってしまったので、片方しかできなかった。それも仕上げができなくてツンツンわらが出っ張っていた。仕方がないから残りの片方は食事のあとかたづけを切りつめてやってみたが、これも完成することができなかった。残念であったがそれを提出し、あとは家へ帰ってから仕上げることにした。

いよいよ徹営のとき、わらぞうりの品評会を開くことになった。すばらしい作品もあるかわりには、これがぞうりかと頭をひねるものもあってゆかいであったが、どの作品にもいっしょうけんめい作ったあとが感じられた。しかし、ひとつひとつ見ながら感心したり、笑ったりしていくうちに何となく何か一つ大きな課題を与えられたような気がしてきた。わらぞうりづくりは日本の美しい伝統をうけつぐひとつの方法だとはじめに話をしてくれたが、ただそれだけではなさそうだ。単に作る技術を覚えるだけでなくて、このわらぞうりを生み育ててくれたむかしからの人々の努力に思いを馳せよということではないだろうか。このような物を考え、育てたむかしからの人々の生活態度やその知恵を改めて感じとることがたいせつだというのではないだろうか。

我々の目ざすスカウテングの中に、忘れてはならないものとして、生活を切り開き新しいものを創り出す心を育てていくことが必要であることをこのわらぞうりは、無言で語っているのではなかろうかと思えてきた。

こんなことを考えながら自分の作ったぞうりをみて、こんなできそこないのものでもていねいに仕上げて、記念にたいせつにしまっておかなければならないと心の中で思った。

朗報

浜松第16団育成会長、浜松地区副委員長、市川重雄氏は、この度び連盟長委嘱理事に推選せられ、更に次で県連盟より推選されて日本連盟中央理事に推選せられました。

当浜松地区としては誠に名誉な事としてここに御報告申し上げます。

涼風さわやか!!

7月8日盛夏をおもわせる日、天竜厚生会発行の「あかまつ」が手元に届けられた。

無心の奉仕

ボーイスカウト浜北第3団

「午前9時マイクロバスで麁玉連絡所を出発して天竜厚生会へ慰問に行った。途中でジグザグの道を通り抜けた。そしたら天竜壮へ着いた。厚生会へ行く道にヘビが死んでいた。天竜厚生会は、とてもりっぱな所だとぼくは思った。始めに赤石寮を見に行った。先生が、〝ここには精神的な大人がいます〟と言いました。プレゼントをやったのは、立てれないお年寄りがいる所でした。その次はあかいし学園この子達は気のどくだと思いました。回りが山にかこまれて、とてもきれいでした。でも空気は薬りっぽかった。てんぼうだいの前で弁当を食べた。いつもじょうぶな体でガンバラなくてはと思いました。」

以上の文は浜北三団（麁玉）カブ隊の中野岳志君の厚生慰問についての作文である。この仲間達の団長でありスカウトの奉仕活動に力を注いでいる山下総太郎さんは奉仕活動の意義について次の様な原稿を寄せてくれた。

「わが国が、経済的に大きく発展してきた中で、日本人はいったい、余暇というものをどの様に考えているのだろうか？最近はテレビや新聞などマスコミなどが余暇時代という。それでは、私たちにとって〝余暇とはいったい何んだろうか〟考えてみませんか。又〝余暇の正しい過ごし方〟を自から実践しようではありませんか。私は、余暇とは仕事時間や日常生活に必要な時間を余いた〝自分で自由に使える時間〟だと理解しております。ミュンヘン五輪の体操代表に選ばれた中京大助教授の中山彰規選手の対話の中で〝体操は相手のミスにつけ込んで勝つ競技ではない。一発勝負でもありえない、練習の成果をそのまま試合に出す、この一点にひたすら集中する〟〝新しい技への挑戦！それが体操ですから…〟〝オリンピックに選ばれても練習はあくまでも余暇に、スポーツアニマルになったら淋しいですからね〟と語っています。

さて私ども、浜北市（麁玉）のカブスカウト、ボーイスカウト浜北第3団と、ガールスカウト県第48団は、昭和46年2月14日に同時発足した小さな団であります。「何か、地域社会のために奉仕活動をしよう」と、スカウトや父兄からこんな声がありました。時を同じくして2月27日天竜厚生会において、「地域社会の人々との交換会」の開催の通知がまいりました。ガールスカウト広瀬団委員長と私が出席したところ、ご熱心な山村事務局長さんの「天竜厚生会の現状と将来」と題しての講話があり、私たち2人は今日までのご苦労をはじめて知り、その大きなすばらしい実績に、大変心をうたれました。実はこの事が機会となり現在の奉仕活動がうまれました。更に、私たちはこれからもささやかな奉仕を続けて行きたいと思っております。」

以上が「あかまつ」に掲載された一文である。私共BS運動を実行する者にとっては誰しもが実施していることであろうが、浜北第3団の皆さんご苦労様でした。今后も奉仕を続けて下さい。まさに暑中の涼風さわやかの感しきりでした。

天竜厚生会い問

浜北3団カブ隊　中野　岳志

9時マイクロバスであら玉れんらく所を出発して天竜厚生会へ、い問に行った。と中でジグザグの道を通りぬけた。そしたら天竜そうへ着いた。

厚生会へ行く道にへびが死んでいた。

天竜厚生会は、とてもりっぱな所だとぼくは思った。始めに赤石りょうを見に行った。先生が、

「ここはせいしん的なおとながいます。」

と言いました。

プレゼントをやったのは、立てれないお年よりがいるところでした。

その次は赤石学園で赤ちゃんのとき病気になって、のうのはたらきが止ってしまったので口もきけない子がいるそうです。

この子たちは気のどくだと思いました。

回りが山にかこまれて、とてもきれいでした。でも空気は薬っぽかった。

てんぼう台の前でべんとうを食べた。

い問が終ったので森林こうえんのおく池でたい集会をした。やっていると中、三組の組長が、きもちがわるくなってたおれたのでおどろいた。

ぼくは坂をころがるから、なったんだなと思った。

いつもじょうぶなからだでがんばらなければいけないと思いました。

キャンプ

浜北3団カブ2くみ　竹田　哲也

ぼくたちカブスカウトで大平へキャンプに行った。はじめは、大平まで2時40分じかくのバスでいった。ついたとき、一ばんびっくりしたことは、小学校とようちえんがつながっていたと言うことです。そのうち、ぼくたちは、ようちえんにとまることにきまった。

4時からキャンプの式をやった。それからようちえんにはいってもってきたばんのごはんをたべた。そのあいだにたいちょうがすんげきをつくってくれと言ったので、ぼくたち2くみもかんがえました。そのけっか、でたじゃでたじゃをやることにした。ばんごはんがすんだあと、がっこうのとしょ室に行ってばんごはんにかんがえたげきをやった。それから、えいがをみせてくれた。

しゃえいくんれん

浜北第3団3組　斎藤　和明

ぼくは、はじめて友だちといっしょにとまるのでとてもたのしみにしていました。もうふをもって大平小学校へバスで行った。山の中の一本道をずっと行った。えいがをみたり、皆んなとゲームしたり、おいしいおしるこを食べた。

「がやがやわいわい」とみんなで話をした。たのしいしゃえいくんれんでした。

湖西連ぼうのハイキング

浜松第10団少年隊　寺田　浩之

5月21日、今日は、湖西連ぼうにハイキングに行く日だ。天気は晴れ。朝7時半に隊長の家に集合ということだった。ぼく達バッファロー班は、班長とぼくの二人だけだった。それでぼく達は、ビーグル班に入った。

みんなが集まったので、高塚駅に向かった。新所原まで電車で行き、そこから歩いて、山のふもとのお寺まで行った。そこから班別になって、10分おきに多米峠へ出発した。始めのうちは急しゃ面ですぐに息が切れてしまった。鉄とうの所は、木が少なく、風が強くて、ゴーゴーというすごい音が聞こえた。と中には、雨やどり岩という大きな岩があった。中に入ったら暗いけど、かっこいいなと思った。山の頂上付近で、電車の中で行きあった人たちと一緒になった。

多米峠から、弁当を食べたとこまでが一番苦しくて、足が自由でなくなったみたいだった。手旗のところでぼくは「ヨ」という字をうった。1回目は「キョウハヨイヒ」というのだった。これはわかった。2回目は、「キョウハカゼガツヨイキヲツケテアルケ」という長い文だったので、わからなかった。そこから本坂峠に行った。そこから三ケ日の町なかまで歩いた。

バスで浜松までいき、そこから篠原東まで来た。くたびれて、くたびれて、たまらなかったけど、とてもいい体験をしたと思った。

湖西連峰（ハイキング）反省

浜松第10団少年隊　鈴木　敏正

第一に、とても疲れた。行く時には、あんなにも歩くとは思ってもみなかった。しかし汽車の旅行というのがよかった。あれで、すいていればもっとよかった。汽車を利用することは、これからもやってほしい。

第二に手旗には、ほんとのことを言って自信がなかった。もっと班長として、いろいろなことを身につけておくべきであった。班集会に班員に笑われてしまった。こんな班長だが、自分としては忍耐力がついたように感じる。

第三に、疲れたあとの食事がおいしいということに気がついた。にぎりめしが、いつもの2倍・3倍のおいしさに感じた。

全体として、班別で、まとまって目的地まで行くことも、班員の協力という点でとてもよかった。しかし、やっぱり疲れた。

これからは、このことを忘れず、いろいろ勉強して、班長としてはずかしくないようにしたい。

「初めてのキャンプ」

浜北第4団　松本　正信

ボーイスカウトに入って3月20日、発隊式とちかいの式をやった。初めは、知らない人ばかりで、なんだか不安だった。だけど日がたつにつれてだんだん、みんなと親しくなって、楽しくなってきた。毎週の訓練はきびしいこともあるが、いろいろ覚えて自分のためになることばかりだ。

6月17・18日森林公園で初めてのキャンプがあった。テントをはるのはおもしろかった。たき木を集めるときはちょうどよいのがなくて、苦労した。自分で作った食事は、とてもおいしくてたくさん食べた。昼間はハイキングに行ったり、夜はキャンプファイヤーをかこんで、いろいろなげきや歌を歌ったりして楽しかった。ねる前に一日の反省をみんなで、話し合った。うれしくてなかなかねむれなかった。それでいて朝は早くおきることができた。初めてのキャンプだったから少しふざけぎみだった。家に帰るともう動きたくなくなってすぐねむってしまった。

ぼくは、これからもいろいろな訓練をうけてがんばっていこうと思う。

浜北第四団のスカウト活動

浜北第4団　梅林　真吾

約2ケ月間という短い期間でのきびしい訓練の末、やっとのこと3月20日の結成式までにのぼりつくことができたことを、たいへんうれしく思っています。その途中での努力を、自慢するというわけではありませんが、その短い期間で、ぼくたちはある一つの大きな何かをつかみつつあろうとしました。そうです。隊全体のチームワークなのです。毎週毎週、日曜日のたびに全員参加し、ロープの結び方、ハイク、ゲームのしかたなどのボーイスカウトの基本となるものを学びとりました。本来ぼくは、浜北第一団の隊員でもありましたので、そこで鍛えられたすべてのものを、この活動で、フルに発揮させてもらいました。このような経過の末、全隊員の協力の成果が、みのったというわけです。しかし、これで浜北第四団の活動が終ったというわけではありません。これからも永遠に活動して行き、他のどの隊にも負けないというぐらいになるのです。

それから、先日のグリンバー会議では、年間行事予定を立てましたが、それには、楽しい行事がいっぱいつまっています。その一つに、四団ではまだ未経験のキャンプが、今年中に、四回ぐらい予定されています。初のキャンプだけに、それに対する楽しみも大きいものです。しかし楽しいだけではなく、つらいものでもあります。設営、雨の日のまきひろい、水くみ、そして最後に撤営など、いろいろあります。でもそれを全部やりとげた後の快感は、やはりうれしく思います。キャンプの他には、飯ごう炊さん、水泳、地区大会、クリスマスパーティー、初日の出参拝など、いろいろあります。そしてそのおのおのの活動にも、やはりいろいろな楽しみが含まれています。

このようにして、浜北第四団の活動は、どんどん進められていくのです。

（のばと班班長）

浜北第四団発隊式

浜北第4団　大村　順一

3月20日、ボーイスカウト浜北第四団の発隊式が、北浜中学校で行われた。

その前夜、講堂にて点火台にともされたローソクの灯のもとで厳しゅくな誓いの式があり、続いて翌日は、僕達隊員が待ち望んだ発隊式の日でした。

当日は、朝からあいにくの雨天でしたが、来賓、関係者、各地区の隊員等、大勢の皆さんが集まって下さり、たいへんうれしく思いました。

式は、まず開会宣言のあと、国旗に敬礼し、点火台のローソクに火をつけました。

うす暗い講堂の中の、赤々と燃えている三本のローソクの炎は、今なお、目に焼きついてはなれません。

そして、そのローソクのもとで、浜北第四団の承認書伝達があり、新しい隊が正式に誕生し、ぼく達もボーイスカウトに新しく仲間入りをしたのです。

このうれしさは、なにものにも変えられぬほどでした。そして、ネッカチーフ授与をうけたときは、新しい朱色のネッカチーフをつけると、キリッと身が引きしまって、ハツラツとした気持ちになり、仲間も、いつになく目がかがやいているように見えました。

プログラムは、順調に進み、おきてとちかいを唱え、来賓の方々のあいさつが終わり、最後のぼく達新隊員と友隊との楽しい交歓が始まりました。

楽隊の演奏や、いやさかの交換など、ボーイスカウトやガールスカウト、カブスカウトなどが加わって、とても楽しくて愉快な催し物が、たくさん行なわれました。

そして午後一時、発隊式は終わりました。

これからは、厳しいいろいろな訓練が、まちかまえています。けれども、この発隊式の気持ちを忘れずに、最後まで、全力をつくしてがんばっていきたいと思います。　（コブラ班班長）

ぼくたちのにわの薬草

ＢＳ浜松第７団カブ隊一組　渡辺　石原　松井　井口　平岡

しいたけ（マツタケ科）

（シイ クヌ シデ クヌギ ナラ のみきに生える）
薬になるところ　菌体全部
1 ベにぞう病（干しいたけ）
2 風の熱さまし（干しいたけ）
3 がん（シイタケの生汁の玉）

たんぽぽ（キク科）

薬用部
全草（日かげ干し）根（日光干し）
花（日かげ干し）
1. 胃腸病
2. 夢だん、まんせい肝炎 肝ぞう病
3. 食用として ゆでておひたし
ゴマあえ 天ぷら サラダ

その他の薬草

キキョウ（キキョウ科）根
ケイトウ（ヒユ科）花茎
ヘケマ（ウリ科）ウリ、ヘタマの水
ヨモギ（キク科）葉
サクラ（バラ科 ソメイヨシ）木の皮
セリ（セリ科）葉茎
ゼンマイ（ゼンマイ科）葉茎

すぎな（トクサ科）

薬用部　葉（日かげ干し）
根（日かげ干し）
1. 胃腸のむくみ
2 ウるしかぶれ
（葉のしぼり汁 ぬる）

ツユクサ（ツユクサ科）葉茎
ウラビ（ウラボシ科）若葉 葉茎
ヤマユリ（ユリ科）花
ユキノシタ（ユキノシタ科）全草 葉

おおばこ（おおばこ科）

くすりになるところ
全草 たね 葉
1 べんぴとハナぢがつづくとき
2 せき
3 かぜのあとくすぶるとき。

のびる　ユリ科

薬になるところ　茎根
1. 健康酒
根の玉を水洗い しかっぱのまま
しょうちゅう漬にし 1ケ月以上 冷暗所に
おいてからのむ。
2. 胃ガンに根の玉を
焼やきにしてのむ。

松　マツ科

薬用部
松葉　松やに　根　花粉
1. 血圧下げる ——→ 生の葉 2.3
2 とう尿病 せんそく
3 胃腸病
4 中　風　マツの葉を茶の
5 リュウマチ

シソ（シソ科）

薬になるところ
葉（日かげ干し）たね（日光干し）
1. 神経がいん症
2 血管つよくする
3 食べもの 天ぷら ふりかけ
やくみ

ヘビイチゴ（バラ科）

薬になるところ　実（生）
1. 湯によるやけど
（実をつぶしてぬる）
2 できもの

はは こぐさ（キク科）

薬用部　全草
1. 百日ぜき ぜんそく
2. しらくも はれけ
（全草をとうがらしと一緒に
黒やきにしてゴマ油 つくって）

どくだみ（どくだみ科）

くすりになるところ
葉茎（日光にほす）
根（日光にほす）
1 はれものの ウミをすい出す
2 とう尿病
3 ニキビ
4 あせもの
5 ちくのうしょう

ハイキング

浜松第７団カブ隊２組
太田　雅章

４月30日は、楽しいハイキングでした。おく山のとんまく山へいきました。山をのぼりながら、わらびをとりました。ボーイスカウトのおにいさんたちは、いまごろどこを歩いているのかと思いました。とちゅうに坂道がありました。その坂道をのぼるに、つかれてしまいました。おかあさんたちは、ずっとうしろの方でした。

ちょうじょうについたら、あつくてたまりませんでした。ちょうじょうのとんまく山のけしきはいいけしきでした。海もみえました。グライダーをとばす人がいました。おかあさんがたは、しばらくたってからちょうじょうに上てきました。そしておべんとうを食べました。とてもおなかがすいていたのでおいしく食べました。ボーイスカウトのおにいさんは、まだこないか下の方をさがして見ました。少しさむくなってきました。ボーイスカウトのおにいさんがきたので、みんなでむかえました。ボーイスカウトのおにいさんはさむいのに、はだかで、おべんとうを食べました。

帰るとき、スベリだいのようなさかみちでした。みんな、はしったので、ぼくもはしりました。おかあさんたちは、ちかみちをしたのでずるいと思いました。きゅうけい時間に、ジュースをのみました。のんでからバスで帰りました。バスをおりたら、雨がふってきました。

浜松第７団カブ隊６組　村山　亮

ハイキング

浜松第７団カブ隊４組
ながた　としあき

ぼくは、７じ30ぷんごろにおとうさんと、おにいさんとたかくらさんのよこのひろばにいきました。みんなはもうあつまっていましたが「みわくん」はまだきていませんでした。すこしたってから「みわくん」がはしってきました。それから、ならんでから、どうろをわたってから、バスにのりました。みんながのってから、バスがはしりだしておく山はんそうぼうまでバスでいきました。

おくやまはんそうぼうについて、ならんでから、６きろあるいてのどが、からからになりました。山をのぼって、ちょうじょうについてから、すこしやすみました。山のしたをみたら「はまなこ」がみえました。山も、そして町もみえました。

四くみのみんながあつまっておべんとうをたべました。山でたべたおべんとうはとてもおいしかった。

ボーイスカウトのひとたちと、ガールスカウトのひとたちが山をのぼってきました。ぼくたちは手をたたいてむかえました。みんなのかおはまっかになっていました。ボーイやガールのひとたちも、おべんとうをたべました。おべんとうをたべてしまったら、しょくぶつをせつめいしてくれました。こんどは、隊長さんがろうぷのしばりかたをおしえてくれました。すこしやすんでから、山をおりていきました。山をおりるときは、なんにもつかれませんでした。とちゅうでやすんでまたおりていきました。もっとしたにいったら、はくちょうがいけでおよいでいました。

４くみはみんな、おなじおみせにいきました。隊長が１じかんだけおやすみをくれました。それから、ぼうえんきょうをかってから、バスがくるとこをにいきました。なかよしの　おやってから、バスにのってからうちへかえりました。

ＢＳキャンプの感想

浜松第４団１年６組　清水　久義

７月27日から10日間のキャンプは大へん楽しかった。

テントの設営のとき、そわそわして班長にしかられたけれどもそのときには、反省していたが、夜はいろいろのことを話してとてもおもしろかったが、朝、４時ごろみんなをおこしてしまい、おこられたりしたこともあった。

28日の朝は、夜つゆでかまどに火がつかずこまったこともあった。その日は、一日中雨がふりそうな天気だった。夜、隊でキャンプファイヤーをやった。げきや歌がキャンプファイヤー　　たのしいのかもしれないけれど、大へん楽しかった。とくにシンデレラ姫はユーモラスがあって楽しかった。その日の夜は、ぐっすりとねむれた。

29日この日は、空は快晴でいい天気だった。この日の楽しみと言えば、夜の天竜５団との合同キャンプ＝ファイヤーだった。この夜、いちばんは天竜５団の３班だったと思いました。歌や劇であかしたキャンプ＝ファイヤーが一番の思い出になったと思いました。

はじめての野営

浜松第４団　小池　康夫

はじめての野営、今考えてみると楽しかったことがたくさんある。たとえば水くみに行って川へおっこちたことや、はん合をたいているとき沢ガニを火の中にほうりこんだことだ。でも楽しいことばかりではない。ごはんのおかずの野菜が生だったり、夜野犬がきたりしたこともあった。でも楽しかったことや先輩の親切にくらべればなんでもなかった。この次は合同野営だ。たくさんのボーイスカウトが来るのだからハジなことはしたくない。でもなにはともあれ、たのしい初めての野営だった。

この次の時には、もっと楽しい良い野営にしたいと思う。まあ４団は上級の人がいいから悪いことにはならないと思うけどね。

隊野営にいって

浜松第４団　松尾　健司

27日から30日までキャンプに行って来たけど、三泊四日という長いのは初めてなので、行くまえはすこし心配だった。

でも、行ってみたらべつにこまることはなかったので安心した。

現地へついたらすぐに仕事をやり始めた。荷物運びがいちばん大変だったが、ほかの仕事もたくさんあった。

次の日は、川で水泳をやった。水がだいぶ冷たかったので、あまり泳がなかったけどおもしろかった。

三日目の夜に天竜五団とやったキャンプファイヤーは、いろいろな劇や歌がでて楽しかった。

いちばん苦しかったのが、ハイキングで、と中で登山になってしまったので登るのにだいぶ苦労した。みんなは、だいぶけがをしたようだけど、ひどいけがをしなかったのでよかった。

この野営での反省は、班長の言うことをあまり聞かなかったことだ。だから、こんどの合同野営ではこの事に注意しようと思う。

ＳＳ活動資料

『セブン・キングス号物語』

浜松第４団　野口　光一

これはスイス・ジュネーブにあるボーイスカウト世界事務局より発行されている「ワールド・スカウティング」1970、VOL 6 No.4の一部を訳したものであります。訳すのに浜松４団ＳＳ隊員の父兄に大変お力になって戴いた事を深謝申し上げます。

この物語は、イギリスのシースカウトが７年半もかかり16トン余のヨットを製作した話であります。

1969年４月、よく晴れた朝早く、44フィート16.5トンの自製のヨットが、イギリス・エセクス州の入江の水面にすべり出した。風に吹きつけられるしぶきと、はだをさす寒さも、荒涼とした浜辺に集まった約500人のシースカウトの熱気で吹きとんだ。ヨットの建造その仕事は、特にめずらしい事ではない、同じ様なヨットが毎年イギリスの海岸ではいくつも進水しているからだ、この話しをする価値があるのは、７年前にこの大きさのヨットを建造するのは（スカウトの手では）不可能だと専門家が云ったのを熱意ある若いシースカウトの手で、ロンドン郊外で作られたと云う事である。

７年前ヨット操法による訓練を行いたくも、ボートがあるだけであった。ヨットを買う事はとても出来ないので、安価な方法として自分達で建造する事に決めた。これは青少年団体で行う最大のヨットである。権威あるロイド船舶100Ａ１級基準に基き作る事にした。ロイド船舶会社の級別はあらゆる風のあらゆる海事当局より構造の強度さと技術的優秀さを求められる事として認められている。それは、完成された船を鑑定した決果与えられるので出来上った船は、どの角度より見ても最高の基準のものである。

イルフォード地区スカウト理事会はロンドン緑地帯のはづれにあるハーグリーブス野営場の訓練センターの一隅を建造地に当てた。７年の間ここには国内、国外たくさんの見学者が訪れる事になった。

初めにベニヤの製図板（45フィート×10フィート）が木枠に固定され、次にドラム缶による蒸気釜、電柱で作ったヨットを支える船台、作業所が建てられた。長い冬の夜でも作業が続けられる様に照明装置も用意された。詳細なヨットの実寸図が製図板にかかれたのは、作業を初めて６ケ月後である、この頃はもう真冬になり、作業はしばしば氷のために困難となった。又、定規のはしにいる人が、他のはしにいる仲間が見えないほどの霧の時もたびたびあった。製図が出来上ると建造が始められた。

シースカウトが造船所で作れば18,000ポンド（約　　円）かかると言われる立派なヨットを所有するまでに延25.000人以上の日時を要したのである。この壮挙は無限の忍耐と労力並びに技術を要求したものである。龍骨は完成され、進んで奉仕する40人のキャンパー（スカウト）により、船台に据えつけられた。作業はたび重なる悪天候にもめげず続けられ、構台の棟に張られた重い防水布が寒さを防ぎ、厚いセーターと熱いお茶で身体を温めての作業であった。ひとつの重な仕事は、肋材を蒸気で曲げることであり、全長を正しく44フィートにする事であった。蒸気を作る道具は原始的なものであり、立ちこめる蒸気と咆哮す火とシースカウトの異様な姿で、近くの消防隊に注意された事もあった。肋材（$1\frac{1}{2}\times1\frac{3}{4}$ インチ）は２時間蒸気の中に入れられ、それを急に取り出し１分以内にヨットの形に曲げられ、出来るだけ早くハンマーで打ち締金で止められた。時には折れてしまう事もあったが84番目の肋材が据付けられるとその行程はすっかり終った。

1963年の夏に35フィートの長さの丸太が届き、板に挽かれた。張板はヨットの実物にそって木取られ、細かなかづにそってけずられた。最終的に各板がリベットで止められるまでには10時間以上かかった。48個の板の取付けは、８月の始めから11月の終りまで夜や週末も働いてかかった。１週間約35時近く作業をしてである。季節は移り、作業は着々と続けられた。時として進行は絶望的におそく何週間も何の変わったところもない様に見える事があった。明け方にその日の予定の作業が終ると云う風であった。しかし彼等の作業は高水準であった。

建造費は5,000ポンド（約　　円）を越したが、個人、団体の好意による援助と材料、設備の贈呈で賄われた。又、将来の維持費をねん出するのに「セブンキングス号“200 Club”友の会」を発足させた。

７年半は長い年月である、特に若者にとってはそうである。スカウトのこの計画における熱意と信念の特長は、龍骨の切り出しに働いた12才の少年の多くは、ヨットと共に成長し、現在、今でもヨットと深く関係しているのである。

第４次セブンキングスグループの作業で困った事は、進水の為に16.5トンのヨットを30哩はなれたエセックスの海岸へイルフォードから輸送する事であった。臨時の枕木の道がクレーン用に布設された。ヨットはジャッキで上げられ、トレーラーで静かに運ばれて行った、水門の入口にあるデコボコの原っぱはウインチで下ろされた、新聞社のカメラマンも特種写真をとろうとクレーンのジップ迄登っての大活躍であった。

進水は、メイランドシーのカドネルブラザーズ船台で行なわれた。スカウトの要望でハーグリーブス野営場（建造地）管理人の夫人ジョーヌ・ガードナーさんによって行なった。進水後セブンキングス号は色々な方面に帰って行く500人のシースカウトを後にして、ローリングクリーク係船地へ進んで行った。そして１時間後、最初のテスト航海をはじめたこの苦難の年月で彼等ががっかりしてよいのか、喜んでよいのかの複雑な気持になったのはこの瞬間であった。

テスト航海は強風の吹くブラックウォーターを下って行き短時間で十分な喜びを味わったのである。ヨットは波立つ海をすばらしい正確さでサラブレットの様に滑らかに進んで行った。

この成功は続けられねばならなかった。セブンキングス号は最初の活動期を終った。週末には、係船地から50哩以上を航海した。今迄に２度もシースカウトをオランダへ休暇に訪問した。最後の休暇訪問は１ケ月続いた、スカウトは非常に熱心で洋行の機会は逃さず利用している。洋行資格（週末200時間以上のヨット維持作業と奉仕等のプログラムが厳格に決められている）は意義深く実行されている。

浜松におけるＳＳヨット活動

1970年・1971年の夏に浜松市のヨットを利用し、浜松市ヨット協会の指導によりヨット訓練を行っております。

このヨットはモス級と呼ばれる小型のものですが、２人乗り組む事が出来ます。通常は佐鳴湖浜松市艇庫におかれ、４月～10月の間利用出来ます。管理は、浜松市ヨット協会が行なっており、市ヨット協会員なら自由に使えます。（入会金1,000円年会費1,500円）

ヨット会員になるには、浜松市教育委員会の実施するヨット教室に参加するか、同等のレベルを持っている人なら入れます。

ＳＳプログラムにヨットを入れるには、事前教育と安全対策が必要です。特に興味本位で、夏の１～２日の訓練ではＳＳ活動として無意味です。本腰を入れた長期の計画のもと実行する事が必要であります。なお、日本ヨット協会においても、レベルの認定の手段として、昨年よりドッジシステムを採用しております。初級中級・上級と区別されております。ヨットは経験と技能が大切ですのでバッジシステムがオールマイティーとは言えませんが、ＳＳ訓練には良いと思います。

最近、上船資格や浜名湖のヨット利用も規制されております。幸い私は小型船舶操従士の免許もありますし、浜名湖の資料もありますので、連絡いただければお手伝いさせていただきます。（野口記）

うごき

3月19日　ＤＣ研集会　市青少年の家、74名参加　組織上２ケ隊編成　１隊々長三輪　２隊々長宮沢　奉仕リーダー34名
〃　スポーツ少年団指導（小野田）
〃　班長訓練野営参加者集会、各隊長を中心に協議
〃　班長訓練野営副食等調達　引佐田力食品へ
20日　浜北４団結成式　北浜中学校友隊多数参加弥栄を送る
23日～26日　３泊４日　班長訓練野営　渋川、川宇連　116名参加
25日　ＳＳ移動野営　天竜熊駅集合　参加者25名参加
4月2日　グリンバー野営反省会（野営行事委員、各奉仕リーダー）楠会館
7日　地区内コミ会議　法林寺
8日　定例地区コミ会議（三輪）県民会館
11日　地区リーダー研修会　法林寺
12日　凧揚祭り打合せ会（内田時　後藤　内田嘉　新井　三輪）県民安全課
15日　定例事務長会議（牧野）静鉄健保会館
〃　地区総会準備打合せ会　内田地区委員長宅
17日　浜松市営産共済事務打合せ会（牧野）北小講堂
18日　地区総会　楠会館
19日　県指導者養成委員会　県民会館
20日　地区内コミ会議　法林寺
21日　市キャンプ講習会打合せ（内田　後藤　三輪）市体育館
〃　県野営行事委員会（竜口）県民会館
22日　50周年記念米国派遣説明会　県民会館
4月23日　植樹祭（16団他）家山
24日　グリンバー野営反省会（各奉仕リーダー）法林寺
25日　ＣＳ第４期研修　員会議（内田嘉　宮沢　柴田）県民会館
5月3日～5日　凧揚駐車場奉仕　中田島海岸
3～6日　ＣＳ第４期研修（宮沢　柴田）朝霧野営場
6日　事局事務引継（三輪　渡辺　牧野）児童会館

原稿募集

第49号　１０月下旬発行予定
海外派遣団報告及びキャンプの体験感想等
原稿〆切り　９月末日
第50号　特輯号新年発行予定
新年の抱負・地区大会関係の記事　スカウト浜松50号の回顧
原稿〆切り　11月10日

7日　県連総会　静鉄健保会館
10日　地区財政委員会　牛山会館
11日　県野営行事特別委員会（竜口）県民会館
12日　中央ブロック会議　法林寺
12日　青年婦人会館建設意見聴取会（小野田　三輪）浜松市501号室
13日　地区コミ　事務長合同会議　県民会館
5月14日　浜松10団カブ隊発隊式　浜松１団他８ケ隊　篠原小学校
15日　地区内コミ会議　法林寺
17日　地区リーダー研修会　法林寺
20～21日　日連総会（内田時、内田嘉、三輪、井ノ口、柴田、杉山）長野県
20～21日　市パイ大奉仕（後藤、外山）青少年の家
22日　西部ブロック会議　遠鉄バスセンター
25日　キャンプ講習会本部員打合せ（三輪、外山、後藤、古田）
〃　渋川キャンプ講習会場下見（内田嘉、後藤）渋川
27日　日連需品部打合せ（県連、中西、担当者）県民会館
29日　中央、西部ブロック合同会議　法林寺
6月1日　正副ブロック長会議　法林寺　隊長訓練野営等について
2日　米国派遣員説明会(第１回)静岡県民会館
6日　市民協会主催キャンプ講習講議　市体育館　内田時　内田嘉　三輪　後藤　外山他
7日　同　上　同　上
9日　カブ関係Ｌ会　法林寺
10～11日　地区コミ事務長会議市　協会主催キャンプ講習会(１泊２日)静岡・渋川川宇連　牧野　内田嘉　三輪　後藤　外山　古田　板倉　渡辺
12日　12団小林ＢＳ隊員葬儀　広沢自宅
14日　野営行事委員会、健康安全委員会　法林寺　合同野営等について
16～18日　合同野営企画委員会第１回　法林寺　ＢＳ研修所入所者　山下三郎⑽鈴木雅美⑽高倉清雄(7)山下二郎⑽堀内三男⒂
20日　指導者養成委員会　法林寺　地区リーダー野営、団委員講習会等について
21日　地区ＳＳリーダー研修会　法林寺　移動野営及び年間行事計画、分担
22日　ＤＭ研修会打合せ　法林寺
24日　米国派遣員第２回説明会　静鉄会館
24～25日　市パイ大奉仕（１泊２日）市青少年の家、外山　三輪
26日　合同野営企画委員会第２回　法林寺
27日　ＤＭ研修会打合せ　法林寺
28日　隊長（リーダー）訓練野営打合せ　成子千鳥
30日　地区委員会　法林寺　ＤＭ・研修会、隊長訓練野営、団委員講習会
7月1日　地区コミ会議　県民会館　三輪
2日　地区ＳＳ連絡会、地区ＤＭ研修会、青少年の家広場、市青少年の家　116名参加
5日　隊長（リーダー）野営打合せ会　法林寺
6日　ＢＳ関係リーダー会　法林寺　合同野営等について
8日　パイ大中央教室、組織拡張委員会、朝霧野外活動センター　法林寺　内田嘉一　平野奉仕
8～9日　地区リーダー野営１泊２日　市青少年の家　25名参加
11日　進歩委員会　マルニシＫＫ会議室、進歩制度等研修
15日　米国派遣打合せ第３回　静鉄健保会館
16日　合同野営（渋川下見）川宇連
17日　米国派遣浜松班会議、合同野営準備会　法林寺
18日　米国派遣壮行会　法林寺
23日　竜口氏（野営行事委員長）葬儀　法林寺
24日　合同野営打合会、米国派遣員市長他あいさつ　法林寺
26日　米国派遣員出発　内田嘉一　宮沢　三輪　牧野　杉山　吉沢　井ノ口　斎木
28日　合同野営準備会
29～30日　神久呂青年学級キャンプ指導　上可多古　柴田、八木本奉仕

あとがき

○　県大会の記事を予定した第48号も大会の中止に伴い、原稿の集りに苦労し予定よりかなりおくれてしまった。
○　従って各位のお手元に届く頃は初秋となってしまうことであろう。残暑御見舞は少しテレくさい感じだが。
○　第49号は別稿の如く、海外派遣団の報告を各位に約束しているので、編輯子もとまどうことだろう。
○　組拡委員会で第50号を新年発行として記念特輯としたいという意見に基き、素晴しいものを作り上げたい。各位の積極的御参加を御願いしたい。

発行所　第48号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町７０－４　児童会館内
ＴＥＬ　５４－０１７８
編集発行責任者　杉山友男
昭和４７年８月25日発行

〝おことわり〟隊野営に参加して(浜松第４団)中村太一君の記事は紙面の都合で次号にさせていただきます。